

日時：2021年12月22日（水）16:00～18:30

場所：グローバルビジネスハブ東京 フィールド

参加者：合計89名

（現地：36名、オンライン29名、登壇企業10名、関係者14名）

●目的

J-Startupサポーターズの大企業やVC（首都圏在住）向けに東北・イスラエルプログラム、J-Startup TOHOKUの情報発信を行うと共に、登壇企業の資金調達先、協業・提携先の発掘を行う。

●開会挨拶 東北経済産業局

●第1部 東北・イスラエル スタートアップ グローバルチャレンジプログラムの紹介

登壇者：駐日イスラエル大使館、(株)MAKOTO

登壇企業：

サステナブルエネルギー開発(株)（エネルギー技術）、ソニア・セラピューティクス(株)（医療機器）、ミーチャー(株)（ITサービス）

●第2部 J-Startup TOHOKUピッチ

登壇企業：

- ・株式会社ゼンシン（障がい者福祉・スポーツ）
- ・ファイトケミカルプロダクツ株式会社（化学技術・素材）
- ・株式会社東北マグネットインスティテュート（素材・マテリアル）
- ・ライフラボラトリ株式会社（IoTシステム）、
- ・Blue Practice株式会社（医療サービス）

●閉会挨拶 仙台市

●名刺交換会



社会的・経済的インパクトの創出に挑戦する東北のスタートアップ



2022.07.09
ヘラルボニーは、私たち選手に
4つ目の見がいたことから誕生しました。

- ▶株式会社ヘラルボニー
- ・2021年11月
シリーズAラウンド資金調達
- ・2022年3月
成田空港とコラボし第3ターミナルと新アクセス通路をジャック
- ・2022年4月
ハイアットセントリック銀座東京とコンセプトルームを販売
- ・2022年6月
日本スタートアップ大賞2022審査委員会特別賞を受賞



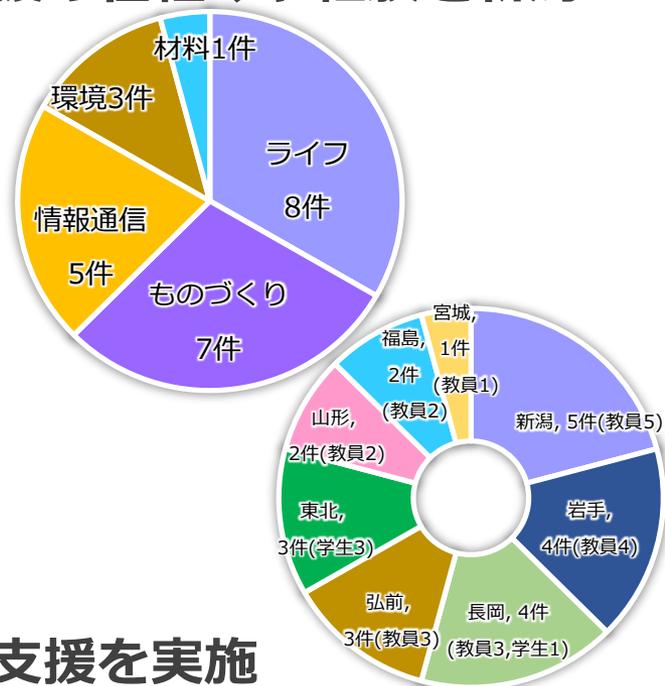
- ▶株式会社ElevationSpace
- ・2022年1月
微細藻類ユーグレナの宇宙培養を目指し共創事業を開始
- ・2022年3月
第三者割当増資による3.1億円の資金調達





JST-SCORE 拠点都市環境整備型（みちのくギャップファンド）

- JST-SCORE（2021年3月採択：2021年度）を活用し、みちのくギャップファンドを設置（24件採択、1件500万円以内を助成）
- 東北大学が構築したシームレスなベンチャー支援の仕組みや経験を新潟を含めた東北6県・新潟の9大学へ展開



- 起業に向けた準備の一環として、充実した伴走支援を実施



採択者の成果発表とビジネス・資金調達等のマッチング促進のためにVC・事業会社等を招いてDEMO DAYを開催

ビジネスプランコンテストを岩手大学にて開催（2022年1月8日-9日）





JST-STARTスタートアップ・エコシステム形成支援

東北・新潟の大学が一体となってアカデミア発スタートアップ創出に取り組む体制を強化

科学技術振興機構の新産業創出プログラム（JST-STARTスタートアップ・エコシステム形成支援）を活用（2022年5月採択）
 期間：2022年度～2026年度の5年間



東北・新潟の10大学が一体となって、起業活動支援（ギャップファンド）に加えて、

- 起業活動支援（みちのくギャップファンド）
- アントレプレナーシップ人材育成（アントレ教育）
- 起業環境の整備
- スタートアップ・エコシステム形成に横断的に取り組み、アカデミア発スタートアップ創出を加速し、地域の経済活性化と高度人材定着化の促進を図る

スタートアップ・エコシステムとプラットフォーム





プラットフォームに東北大学の取組を展開

東北大学が構築してきた「シームレスなベンチャー支援」の仕組みと経験を東北・新潟の大学で共有・発展

東北大学の先進的な取組を東北・新潟の大学に横展開

アントレプレナーシップ育成

- 起業家育成プログラム（地域共通・参画機関毎）
- 指導人材等育成

事業化検証支援

- GAPファンド
- 各種セミナー
- マッチング・イベント

大学発ベンチャーへの投資

- THVP-2号ファンド（東北地域の国立大学発ベンチャーへの投資）
- 本プラットフォームと民間VCの連携

起業環境の整備

スタートアップ・エコシステム形成・発展

①東北大学スタートアップ事業化支援基金

- 自律的にスタートアップを生み出す仕組みとして2021年12月に基金を創設。
- 社会・地域、企業・経済団体、VC・金融機関、スタートアップ関係者・同窓会組織の協力を得つつ、新事業創出と地域活性化のためのイノベーションサイクルを循環させる。

②東北大学版EIR（住み込み起業家）

- 経営者候補者が学内でスタートアップ支援業務を行いながら、学内のリソースやシーズをベースに起業。
- 教育者としての役割ではなく、（ベンチャーキャピタルが設置するEIRと同様に）起業家として特化。
- 既に起業実績あり

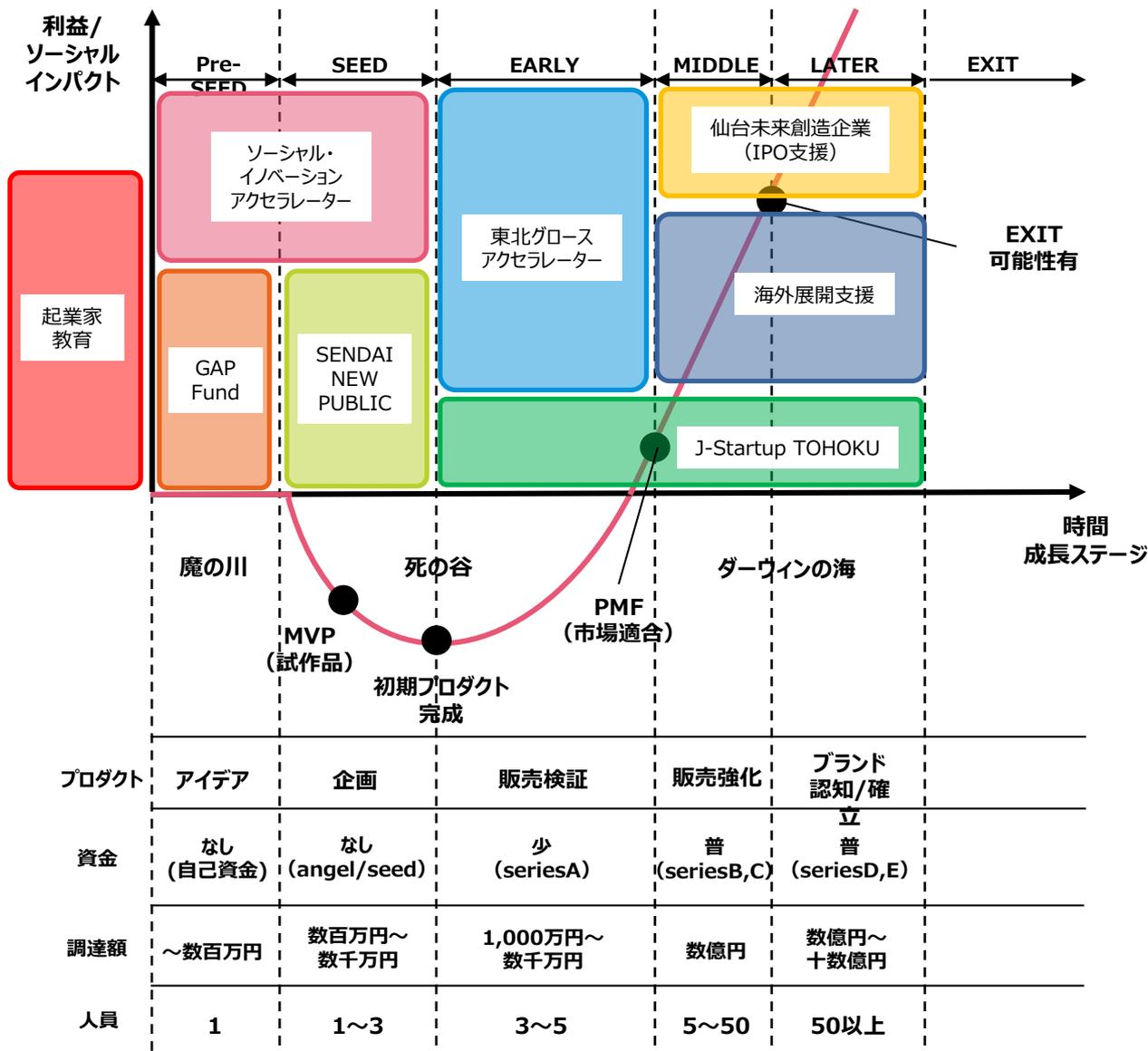
③東北大学スタートアップアルムナイ（起業家同窓会クラブ）

- 産業界で活躍する卒業を組織化し、ネットワーキングやコンサルティング等の実施が可能なプラットフォームとして活用（SNS開設等）。
- 東北大学発のベンチャー経営者や研究成果の事業化を目指す研究者と卒業生のコミュニケーションを実現。

④スタートアップ向けシェアオフィス（青葉山ガレージ）

- 起業に関係するすべての人間に開かれた共創スペース。起業直後の大学発スタートアップが会社登記可能。
- 既に入居実績あり
- 起業関連ライブラリー、イベント開催、コワーキング利用、webミーティング等の複合機能を備えた施設。5G利用可。





魔の川

研究ステージと製品化に向けた開発ステージの間に存在する障壁。研究を研究だけで終わらせないようにするためには、技術シーズを市場ニーズに結び付け、具体的なターゲット製品を構想する知恵が必要とされる。

死の谷

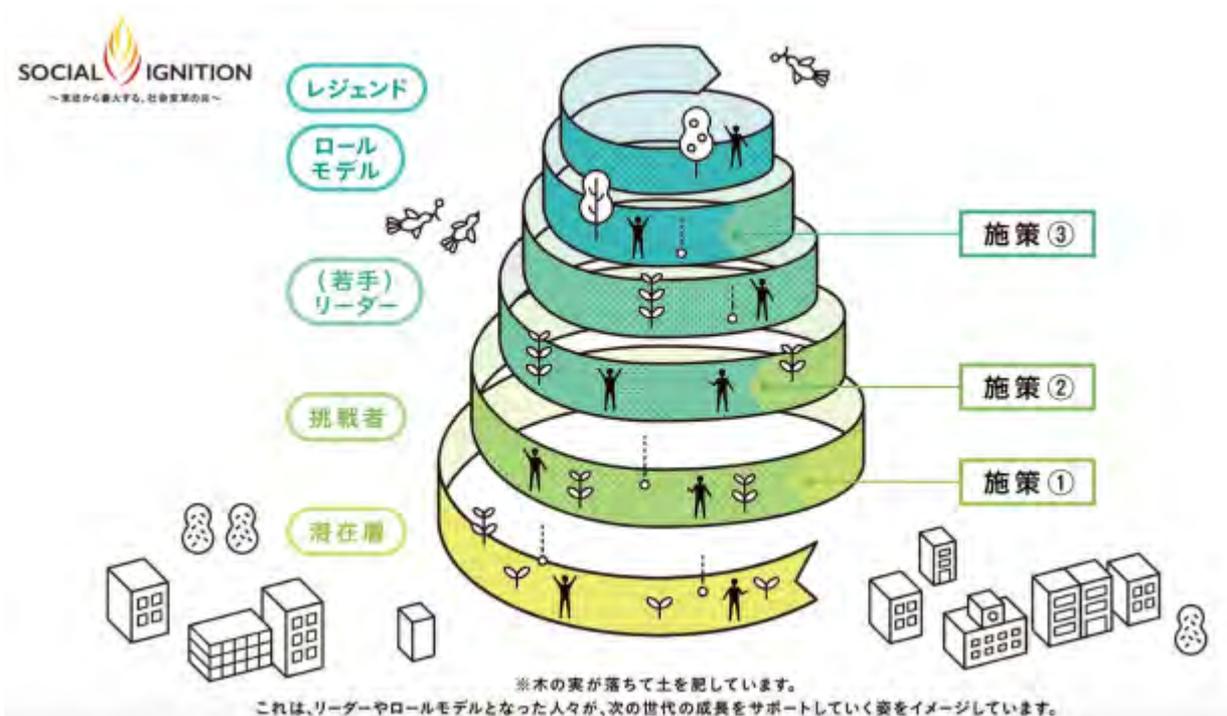
開発ステージと事業化ステージの間に存在する障壁。商品を製造・販売して売上にまでつなげていくためには、資金や人材などの経営資源を適切に調達することが必要とされる。

ダーウィンの海

事業化ステージと産業化ステージの間に存在する障壁。事業を成功させるためには、競争優位性を構築し、多くのライバル企業との生き残り競争に勝つことが必要とされる。

【東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター（2017～）】

仙台市とINTILAQ東北イノベーションセンターが主催し、東北地域の自治体や大企業と連携し、社会を少しでも良くしていきたいという思いを、社会起業に関するセミナー、ワークショップ、6ヶ月程度の個別集中支援プログラム等を実施することにより、Vision/Missionという形で言語化し、メンターが伴走しながら持続可能な形で事業計画を作成。「**Vision**」「**そこまでの道筋**」「**社会インパクト**」を明確化し、実現可能性を高めていくプログラムを通じて、**社会起業人材を連続的に輩出し、社会起業家のエコシステム（生態系）を構築**する。2017年から5年間でソーシャルイノベーター61名を輩出。



“SOCIAL IGNITION”事業の全体像
今後の地域を担う人材やイノベーションを起こす人材を育て、着火し、持続可能な東北地域を目指す。





2017プログラム採択者のビジネスプラン

- ・障害児向けデイサービス事業
- ・生産者と農家をつなぐプラットフォーム
- ・農業を通じた地域コミュニティの再生
- ・低出生体重児向けベビー服
- ・都市公園の再生
- ・キャリアカウンセリング事業
- ・スポーツを中心とした心の教育事業
- ・オーダーメイド型医療・介護事業
- ・ICTを活用した教育事業
- ・貧困家庭の子どもへの放課後ケア事業
- ・がんサバイバー向け写真撮影事業
- ・参加型リノベーション事業



2018プログラム採択者のビジネスプラン (解決したい社会課題)

- ・中年期の不摂生が原因による寝たきりや認知機能低下者の増加
- ・学生時代のキャリアを考える経験及び就活情報の地域間格差
- ・地域住民が気付かないことによる地域価値の衰退
- ・産前産後女性へのワークライフ支援の不足
- ・地域の将来を担う若者の不足
- ・医療者間の情報共有不足による患者の不利益や医療費増大など医療現場で起こる諸課題
- ・精神疾患の特性と雇用形態のミスマッチ
- ・子供の自己肯定感の低い現状
- ・不登校になる発達障害児の増加と保護者へのサポート体制の希薄
- ・認知症介護
- ・障がい者や家族が抱える不安感・孤独感
- ・マイノリティとマジョリティの相互理解の欠如



**2019プログラム採択者のビジネスプラン
(解決したい社会課題)**

- ・障害を抱える人が力を発揮できない社会
- ・学校問題を理由に命を絶つ子どもたちがいる現状
- ・農家の自信と誇りの喪失
- ・子どもの個性や可能性が育まれない社会
- ・保育士の人材不足、社会的地位の低さ
- ・バーチャル化が進む世界で主体性やリアルを失うこと
- ・女性の社会進出の遅れ、単身女性・シングルマザーの貧困、ICT人材の不足
- ・不登校の子どもに居場所がないこと
- ・障害者への差別と偏見。障害福祉の人材不足。
- ・女性の労働人口率と所得の低さ
- ・温暖化の解決を遅らせる格差・貧困
- ・岩手の将来を担う人材の流出



**2020プログラム採択者のビジネスプラン
(解決したい社会課題)**

- ・衰退する伝統的工芸の技術承継、障害者への差別、偏見
- ・不登校につながる教室環境と大人の関わり方
- ・理解しあわないことから、経済活性化の機会が失われていること
- ・地方都市中心市街地の衰退
- ・社会課題へ関心をもち行動する人材の不足
- ・忙しさから日々の【ありがとう】を感じにくいこと
- ・母親の子育て負担。地方の子育てや教育の選択肢の少なさ
- ・地域への自信が失われ、町の活気も失われていること
- ・一定の価値観に捉われず自他を容認し心の交流にあふれた関係を築けないこと
- ・高校生が将来をワクワク考えられていないこと
- ・“他人事・見ないふり”を生み出し、いのちをなくしている防災の形。

2021プログラム採択者のビジネスプラン (解決したい社会課題)

- ・「学校・就職」というルールを外れてしまうと、社会から孤立してしまうこと。
- ・行政やリーダーに頼らない町づくりをするにはどうしたらよいか
- ・地方は挑戦したくても実行に移すための繋がりが無く、踏み出し難い環境になっている。
- ・個性を活かしたり、好きなことにチャレンジして生計を立てていくのが難しい社会になっていること。
- ・医療介護分野の現場問題(業務過多、外部連携不足、人材流出等)。
- ・都市一極集中型から地方分散型へのシフト
- ・「産後うつ」による自死。
- ・障害のある人が安心して相談できる場所がないこと
- ・食の多様性や安全性への選択肢の少なさ。
- ・孤独を感じている子供・大人がたくさんいること。
- ・「働きたくても働けない」障がい児者を育児する母親の雇用を支える仕組みがないこと。

